

20 世紀の中国は激動と激変の世紀である。1912 年清王朝の崩壊は、2000 年以上続いた中国の封建制度と封建社会を終結させた。この国家体制の変化は、多くの文化人が西洋の知識に触れる機会に繋がり、特に音楽領域に於いては 1 世紀近くの年月を経て、大きく変容することとなった。その流れにより、近年は多くの中国の音楽家がヨーロッパで活躍し、存在感を増している。では何故中国の音楽家達がこのような進化を成し遂げたのだろうか？ここでは 20 世紀中国音楽の様子を覗いていきたいと考えている。



王明君 先生

上海出身。北京中央音楽学院を経て中国音楽学院を卒業。卒業と同時に国家最年少記録で専任講師に任命される。85 年に来日し、東京藝術大学大学院修士課程 (音楽学) 修了。これまで、東京交響楽団、広島交響楽団、旧新星日本交響楽団、北京中央楽団、上海交響楽団など多くのオーケストラと共演。99 年、文化庁主催のコンサートでは天皇、皇后両陛下の御前で演奏を行う。03 年には自作曲「星光」で民音芸術大賞を受賞。日本ではこれまで 7 枚の CD を発表。現在、昭和音楽大学教授、東京音楽大学非常勤講師。

※ 各教員方のプロフィールは 2025 年 2 月現在のものです。

お申込み及び注意事項について

- ・先着順で受け付けます。お申込みいただいた場合でも、すでに定員満了となっており、お断りする場合があります。なお、定員に満たない講座は開講しない場合もあります。
- ・受講料のお支払いについては、各講座の申込締切日以降にメールでご案内いたします。
- ・講座の内容、開催日時や教室番号は都合により変更となる場合があります。
- ・受講料お振込後、または講座途中のキャンセル、返金は致しかねます。
- ・お申込み後に受講受付連絡をメール配信します。お申込み内容をご確認ください。
- ・すべての講座は日本語で行います。
- ・機材を使用する講座は、使用料が含まれております。

お申込先



<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/42619.php>

社会連携部事業課
shakaijin2@tokyo-ondai.ac.jp
☎ 03-6455-2769

講座開催場所

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス

〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1



Google Map

JR 「恵比寿駅」より徒歩 14 分
東急東横線 「中目黒駅」「代官山駅」より徒歩 5 分



社会人の
学びの場

東京音楽大学

音楽大学でより本格的に“学びたい・学び直したい”
社会人の方々を対象に、中目黒・代官山キャンパスにて
「社会人の学びの場」を開講しています。



開講講座

即興的ピアノ演奏のススメ・初級
～和音と伴奏付け～

西洋音楽の流れの中で

シリーズV

分析によって得られる解釈からより深い表現へ！
～形式と表現～

「リズム」はしゃべる事で手に入れよう

古楽四方山話、その 4

創作への誘い
～自分のピアノ曲を作ってみませんか？ 初めて曲を作る方の為の～

20 世紀における中国音楽の変遷



即興的ピアノ演奏のススメ・初級 ～和音と伴奏付け～

5月10日・5月24日・6月7日
土曜 16:00-17:30

全3回 19,800円(税込) 定員 20名 最低開講人員7名 申込締切 4月19日(土)

「ピアノ譜がなくてもメロディーに伴奏を付けてみたい」「キーボード・ハーモニーに興味がある」という方を対象にした、伴奏付けの導入編です。コードネームと和音記号の基礎を解説し、基本的な和音付けと様々な伴奏付けを実践していきますので、予備知識がなくても心配には及びません。ピアノは「和声楽器」。まずは簡単な和音を操ることで、楽譜がなくても即興的に鍵盤を自由に弾くことができる可能性を体感してください。ピアノ音楽の捉え方や楽しみ方が一層広がることでしょう。



渚智佳先生

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、東京藝術大学大学院修了。全日本学生音楽コンクール全国大会高校の部、園田高弘賞ピアノコンクール等にて優勝。東京都交響楽団、チェコ・フィル八重奏団等と共演。全音ピアノ教則本CDでは「ソナタ・アルバム」「ツェルニー50番」始め20タイトルを超える録音を行なう。ヤマハ音楽振興会にてピアノ指導法講座や教材編纂・録音に携わる。演奏活動の傍ら作曲も手掛け、R.シュトラウス「英雄の生涯」吹奏楽編曲版を出版。現在、東京音楽大学専任講師、ヤマハ音楽研究所研究員。

* 機材使用料を含みます。

西洋音楽の流れの中で

6月12日・6月19日・6月26日
木曜 18:30-20:00

全3回 13,200円(税込) 定員 35名 最低開講人員10名 申込締切 5月22日(木)

西洋音楽の歴史を概観しますが、その中で特にそれぞれの時代の特徴を顕著に担うジャンルに焦点を当てていきます。なぜそのようなジャンルが出現するに至ったのか、どのような音楽家、どのような聴衆がそれを享受したのか、などについて考察していきます。いつの時代も人々は音楽を楽しんでいたのですが、今を生きる私たちが同じように当時の音楽を聴くことができるのか、自らに問いかけながら聴いていくと、思いがけない音楽の姿が見えたりします。ご一緒に色々な時代の音楽を楽しんでいただけたらと思います。



坂崎則子先生

東京藝術大学楽理科、同大学院音楽研究科修了。
現在、東京音楽大学客員教授。ルネサンス・バロックのリュート音楽研究。本学学部、大学院では西洋音楽史、オペラ史、文献研究、学生の論文指導などを担当。

分析によって得られる解釈からより深い表現へ！(シリーズV) ～形式と表現～

5月12日・5月19日・5月26日
月曜 18:30-20:00

全3回 13,200円(税込) 定員 35名 最低開講人員10名 申込締切 4月21日(月)

形式はいくつか知っているけれど、形式を勉強して何かいいことがあるの？という疑問にお答えする講座です。作曲家は自分の表現したい音楽を形式の中に閉じ込めることはありません。形式は作曲家の表現したい音楽を受け止める、言わば「受け皿」なのです。バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番の「メヌエットI」、ショパンの「雨だれ」は一見どちらも三部形式ですが、詳しく見ると型通りではない独創性に溢れています。この講座では作品をカテゴライズする便利な方法である「形式」を概観すると共に、様々な名曲の形式と表現の関連を紐解いていきます。



照屋正樹先生

東京藝術大学音楽学部作曲科及び同大学院音楽研究科作曲専攻卒業
現在、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学非常勤講師
主要著書：「楽典～音楽の基礎から和声へ」(アルテスパブリッシング刊、共著)
「フォルマシオン・ミュージカル教育法によるティーチングプラン」(東京藝術大学出版会刊)

「リズム」はしゃべる事で手に入れよう

6月2日・6月9日・6月16日
月曜 18:30-20:00

全3回 13,200円(税込) 定員 35名 最低開講人員10名 申込締切 5月12日(月)

リズムは、しゃべり言葉を音符化したものでもあります。みなさんは、「しまった!」「すべった!」などを、どのようなリズム形で書くかを考えた事、おありですか? このように、しゃべり言葉の中から「リズム形」をたぐり寄せてみましょう、というのがこの講座の肝です。難しい楽典的なお話から入るのではなく、良く知っている曲の冒頭部分に、このしゃべり言葉のリズム形を見つけ出して味わっていきこうと思っています。奮ってご参加くださいませ。



高橋千佳子先生

東京藝術大学作曲科卒業。同大学院ソルフェージュ科修了。作曲を池内友次郎、矢代秋雄、永富正之、間宮芳生、松村禎三の諸氏に、ピアノを谷康子女史に、また伴奏法をアンリエット・ビュイグ＝ロジェ女史に師事。国立音楽大学、東京藝術大学及び同附属高校、日本大学芸術学部、東京音楽大学の講師を経て、現在、東京音楽大学附属高校講師。成城ソルフェージュ研究協会代表、日本ソルフェージュ研究協議会理事。また、1977年よりCM作曲に携わり、ヒット作は明石家さんまのキッコマン・ぼん酢しょうゆ「しあわせって何だっけ?」。著書に『ドレミでみつめる名曲のヒミツ』『言葉で味わうリズム唱入門』(音楽之友社)、『たのしいリズムパーティー1、2巻』『ぶつぶるのリズムカード』『いちばんやさしい3歳からのソルフェージュ、5歳からのソルフェージュ』(ヤマハM.E.H.)など。

古楽四方山話、その4

7月7日・7月14日・7月21日
月曜 18:30-20:00

全3回 13,200円(税込) 定員 35名 最低開講人員10名 申込締切 6月16日(月)

社会に根付いてきた感のある「古楽」。前回までに引き続き、古楽とは何かを考える。「それ以外」と何が違うのか? 古楽を実践する時の問題・課題は何か? 聴くときには特別な知識や理解が必要なのか? 楽譜・資料も交え、録音の比較も行なって、時代による趣味の変化や、演奏の仕方によって大きく変わる音楽表現の是非や、現代の私たちがどう感じ、捉えるべきかなどについて考え巡らす時間です。



鈴木秀美先生

チェロ、指揮、執筆、録音ディレクター、教育と活動は多岐にわたり、サントリー音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞ほか多数を受賞。OLCの他国内外の楽団に指揮者及びソリストとして客演。神戸市室内管弦楽団音楽監督。山形交響楽団首席客演指揮者。日本ベートーヴェンクライス副代表理事。録音は多数に上る。著書に「『古楽器』よ、さらば!」、「ガット・カフェ」、「無伴奏チェロ組曲」、「通奏低音弾きの言葉では」。東京音楽大学チェロ科客員教授、東京藝術大学古楽科講師(2025年3月まで)。

創作への誘い ～自分のピアノ曲を作ってみませんか? 初めて曲を作る方の為の

6月3日・6月10日・6月17日
火曜 18:30-20:00

全3回 19,800円(税込) 定員 20名 最低開講人員7名 申込締切 5月13日(火)

近年大人になってからピアノを始める方や、子供の頃に習っていて、また再開される方が増えてきました。過去の名曲を演奏することも大きな楽しみですが、そこにもし自分のオリジナル曲を加えることが出来れば、今までとは違った音楽世界が開かれるのではないのでしょうか。ベートーヴェン、ショパン、リストなど偉大な作曲家たちも演奏することから始め、ピアノ作品を作り、そこから様々な作品へと幅を広げて行きました。難しい曲でなくても自分の曲を作り演奏する事によって、作品に対する見方にも変化をもたらすと思います。実習をしながら作曲の基礎を体験する講座ですので、初歩的な楽曲の演奏経験がある方を対象とします。



喜久邦博先生

ピアノ曲及び吹奏楽曲の作編曲を多く手掛け今日に至る。ピティナ・ピアノコンペティション、カワイこどもピアノコンクールの課題曲として多くの作品が選定され、たくさんの子供たちに演奏されている。またヤマハ音楽振興会指導スタッフとして、講師の育成研修業務、グレード関連講座及び試験官、優秀生徒の発掘育成、JOC(ジュニアオリジナルコンサート)の制作ディレクションなど、多岐にわたる業務に携わり現在に至っている。東京音楽大学、大阪芸術大学、ヤマハ音楽院各講師。日本作曲家協議会会員。

* 機材使用料を含みます。